

新国立劇場 2023/2024シーズン

デカローグ 1~10

一般発売直前！2/12(月・休)スペシャルトークイベント開催決定

演出の小川絵梨子と上村聡史、

そしてスペシャルゲストに映画監督・石川 慶(『愚行録』『蜜蜂と遠雷』『ある男』)を迎え、
ポーランドの世界的映画監督 クシシュトフ・ケシロフスキが遺した傑作
『デカローグ』の魅力語るトークイベント！



「トリコロール三部作」『ふたりのベロニカ』で知られる、ポーランドの名匠クシシュトフ・ケシロフスキが発表した『デカローグ』。旧約聖書の十戒をモチーフに 1980 年代のポーランド、ワルシャワのとある団地に住む人々を描いた十篇の連作集です。人間を裁き断罪するのではなく、人間を不完全な存在として認め、その迷いや弱さを含めて向き合うことが描かれたこの作品は、人への根源的な肯定と愛の眼差しで溢れています。

もともとテレビ放映用ミニ・シリーズとして 1987-1988 年にかけて撮影され、その質の高さが評判を呼び、その後世界で劇場公開。スタンリー・キューブリック、エドワード・ヤ

ン、侯 孝賢(ホウ・シャオシェン)など世界の映画作家が賞賛の声を贈りました。

この十篇の物語を 2024 年 4 月～7 月、新国立劇場にて完全舞台化いたします！全 10 話を大きく 3 つのタームに分け、4～5 月は『デカローグ 1～4』を、5～6 月は『デカローグ 5～6』を、そして 6～7 月は『デカローグ 7～10』を上演します総勢 40 名以上の出演者と共に、公演期間約 4 カ月という前例のない大規模プロジェクトに挑みます。

一般発売を目前にした 2 月 12 日(月・休)、スペシャルトークイベントを開催いたします！

演出を担当する小川絵梨子(新国立劇場 演劇芸術監督)と上村聡史、そしてスペシャルゲストに、ケシロフスキと同じポーランド国立ウッチ映画大学で学び、「『デカローグ』はバイブルのような作品」と話す映画監督の石川 慶氏をお招きして、『デカローグ』やケシロフスキ作品の魅力、舞台化について、同世代の 3 人が語り合います。

ぜひ、御媒体にて本情報のお取り上げのご検討のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

<『デカローグ 1～10』一般発売直前！スペシャルトークイベント>

【日時】2 月 12 日(月・休)15:00～16:00(予定)

【会場】新国立劇場・オペラパレス ホワイエ

【登壇者】

小川絵梨子<新国立劇場 演劇芸術監督／演出>、上村聡史<演出>

スペシャルゲスト:石川 慶<映画監督>

進行役:大堀久美子<編集者・ライター>

【料金】無料・自由席(要予約) 【定員】最大 150 名程度(先着順)

【受付開始】2024 年 1 月 31 日(水)10:00～

【申込・詳細】https://www.nntt.jac.go.jp/play/news/detail/13_027069.html

登壇者プロフィール

[小川絵梨子(おがわ・えりこ)]



2004年、ニューヨーク・アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修生。18年9月より新国立劇場の演劇芸術監督に就任。近年の演出作品に、『ART』『おやすみ、お母さん』『管理人／THE CARETAKER』『ダディ』『ダウト～疑いについての寓話』『検察側の証人』『ほんとうのハウンド警部』『作者を探す六人の登場人物』『じゃり』『ART』『死と乙女』『WILD』『熱帯樹』『出口なし』『マクガワン・トリロジー』『FUN HOME』『The Beauty Queen of Leenane』『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『CRIMES OF THE HEART 一心の罪』『死の舞踏／令嬢ジュリー』『ユビュ王』『夜想曲集』『RED』『スポケーンの左手』など。

新国立劇場では『レオポルトシュタット』『アンチポデス』『キネマの天地』『タージマハルの衛兵』『骨と十字架』『スカイライト』『1984』『マリアの首－幻に長崎を想う曲－』『星ノ数ホド』

『OPUS/作品』の演出のほか、『東京ローズ』『かもめ』『ウィンズロウ・ボーイ』の翻訳も手がける。

[上村聡史(かみむら・さとし)]



2001年文学座附属演劇研究所入所、18年に同劇団を退座し、現在はフリーで活動。09年より文化庁新進芸術家海外留学制度において1年間イギリス・ドイツに留学。15年に第22回読売演劇大賞最優秀演出家賞、第17回千田是也賞、21年には第29回読売演劇大賞最優秀演出家賞、第56回紀伊國屋演劇賞を受賞。近年の主な演出作品に、『My Boy Jack』『野鴨-Vildanden-』『ガラスの動物園』『Oslo (オスロ)』『ミセス・クライン』『約束の血』『炎 アンサンディ』『岸 リトラル』『森 フォレ』など。新国立劇場では、『エンジェルス・イン・アメリカ』『斬られの仙太』『オレスティア』『城塞』『アルトナの幽閉者』を演出。

[スペシャルゲスト]

[石川 慶(いしかわ・けい)]



1977年生まれ、愛知県出身。ポーランド国立映画大学で演出を学ぶ。長編デビュー作となった2017年に公開した『愚行録』では、ベネチア国際映画祭オリゾンティ・コンペティション部門に選出されたほか、新藤兼人賞銀賞、ヨコハマ映画祭、日本映画プロフェッショナル大賞では新人監督賞も受賞。

恩田陸の傑作ベストセラーを実写映画化した2019年公開の『蜜蜂と遠雷』では、毎日映画コンクール日本映画大賞、日本アカデミー賞優秀作品賞などを受賞。2021年には、世界的なSF作家であるケン・リュウ原作の『Arc アーク』を監督。2022年公開の『ある男』は、再度ベネチア国際映画祭オリゾンティ・コンペティション部門、釜山国際映画祭クロージング作品に選出。また国内でも報知映画賞作品賞を受賞するなど、国内外で高い評価を得ている。

公演概要



『デカローク 1～10』

【公演日程】2024年4月13日(土)～7月15日(月・祝)

デカローク1～4(プログラムA&B 交互上演):2024年4月13日(土)～5月6日(月・休)

デカローク5～6(プログラムC):2024年5月18日(土)～6月2日(日)

デカローク7～10(プログラムD&E 交互上演):2024年6月22日(土)～7月15日(月・祝)

【会場】新国立劇場 小劇場

【原作】クシシュトフ・ケシロフスキ／クシシュトフ・ピエシェヴィチ

【翻訳】久山宏一 【上演台本】須貝 英 【演出】小川絵梨子／上村聡史

【公式 HP】<https://www.nntt.jac.go.jp/play/dekalog/>

【一般発売日】2024年2月17日(土)10:00～

プログラムA(デカローク1、デカローク3)



デカローク1 ある運命に関する物語

演出:小川絵梨子

出演:ノゾエ征爾、高橋恵子

チョウ・ヨンホ、森川由樹、鈴木勝大、浅野令子
亀田佳明



デカローク3 あるクリスマス・イヴに関する物語

演出:小川絵梨子

出演:千葉哲也、小島聖

浅野令子、鈴木勝大、チョウ・ヨンホ、森川由樹
亀田佳明

プログラムB(デカローク2、デカローク4)



デカローク2 ある選択に関する物語

演出:上村聡史

出演:前田亜季、益岡徹

坂本慶介、近藤隼、松田佳央理
亀田佳明



デカローク4 ある父と娘に関する物語

演出:上村聡史

出演:近藤芳正、夏子

松田佳央理、坂本慶介、近藤隼
亀田佳明

プログラム C(デカローグ5、デカローグ6)



デカローグ5 ある殺人に関する物語

演出:小川絵梨子

出演:福崎那由他、渋谷謙人、寺十吾
齊藤直樹、内田健介、名越志保、田中亨
亀田佳明



デカローグ6 ある愛に関する物語

演出:上村聡史

出演:仙名彩世、田中亨
寺十吾、名越志保、齊藤直樹、内田健介
亀田佳明

プログラム D(デカローグ7、デカローグ8)



デカローグ7 ある告白に関する物語

演出:上村聡史

出演:吉田美月喜、章平、津田真澄
大滝寛、田中穂先、堀元宗一朗、笹野美由紀、伊海実紗
亀田佳明



デカローグ8 ある過去に関する物語

演出:上村聡史

出演:高田聖子、岡本玲、大滝寛
田中穂先、章平、堀元宗一朗、笹野美由紀、伊海実紗
亀田佳明

プログラム E(デカローグ9、デカローグ10)



デカローグ9 ある孤独に関する物語

演出:小川絵梨子

出演:伊達暁、万里紗、宮崎秋人
笠井日向、鈴木将一朗、松本亮、石母田史朗
亀田佳明



デカローグ10 ある希望に関する物語

演出:小川絵梨子

出演:豎山隼太、石母田史朗
鈴木将一朗、松本亮、伊達暁、宮崎秋人、笠井日向
亀田佳明

<本件に関するお問い合わせ>

※イベント取材ご希望の場合もお問い合わせください。

制作部演劇 広報担当:杉田 TEL:03-5352-5738 FAX:03-5352-5737